

EUROBIKE2007

今年で16回目となる世界最大の自転車展示会 EUROBIKE2007 が、2007年8月30日(木)～9月2日(日)の4日間、ドイツ南部の街フリードリッヒスハーフェンで開催された。主催者発表によると、ビジネス関係の来場者数は世界75カ国から34,280人(対前年比7.8%増)、出展社数は36カ国・地域914社(対前年比10.0%増)となり、出展者・来場者共に記録を更新した。また最終日の一般開放日には18,800名の熱心なユーザーが駆けつけた。

- 主催：メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社
- 開催地：ドイツ・フリードリッヒスハーフェン市
- 会期：2007年8月30日(木)～9月2日(日) 4日間
- 展示会場：13ホール(ツェッペリン倉庫含む)及び屋外展示(昨年11ホール)
- 展示面積：88,000㎡-内訳76,000㎡及び屋外展示12,000㎡(昨年86,000㎡)
- 入場者数：ビジネス関係来場者 75カ国34,280人(昨年76カ国31,810人)
一般来場者 18,800人(対前年比4.5%減、昨年19,684人)
- 出展社数：36カ国・地域 914社 ※9/24付リスト集計数(昨年37カ国830社)



GHOST



CUBE

展示会概要

世界各国の自転車メーカーは新商品発表の場として EUROBIKE に焦点を当て、全車種の最新モデルを展示し来場者も世界各国から集まった。ドイツの出展者は313社と全体の3分の1を占め、前年より40社以上も増加した。海外からの出展者では台湾、イタリア、オランダ、スイス及びスペインなどの参加が増えた一方、フランス、アメリカからの参加は減った。

今年は会場不足を補うため、隣接する飛行船で有名なツェッペリン社の倉庫も会場として利用したが、他ホールとの接続も悪く展示会場として良い環境とは言えず、増加する出展申

込者に対する苦肉の策にすぎなかった。今まで参加していなかったオランダの大手メーカー「ガゼレ」はこのホールに出展したが、アクセスの悪い同ホールへ案内板をいくつも設置し来場者を誘導する羽目になった。

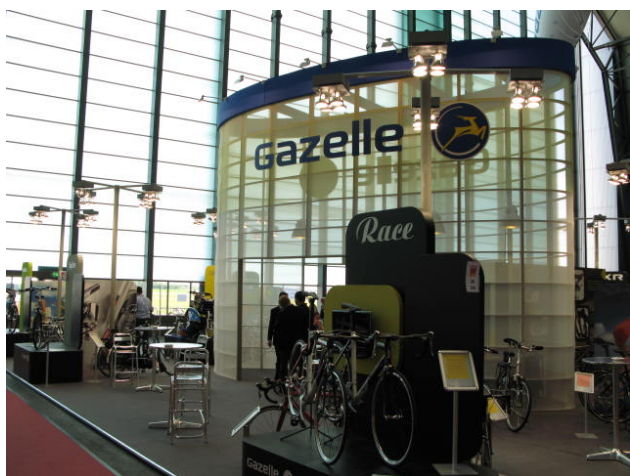
展示会自体として頂点に達し成熟期を迎えつつあり、このまま拡大・成長を続けていけるのか不明であるが、他に取って代わるものが見当たらない以上、しばらくこの状況が続くとみられる。今年も新機軸となるような目新しい技術やアイデアは見られなかった。



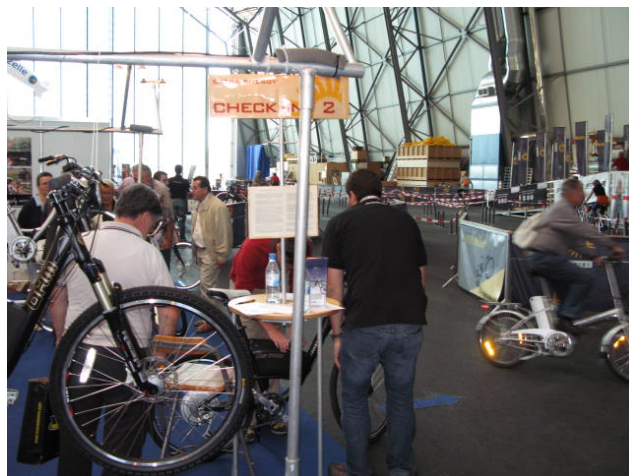
ツェッペリン・ホール全容



ガゼレの案内板



ガゼレ



ホール半分は電動自転車試乗コーナーが占める

殆どのメーカーではスポーツ車のトップモデルはロードレーサー、MTB とともにカーボンフレームが当然となっている。各社の製品は年々改良されているが、ブランドロゴ以外でトップモデルの明らかな違いを見分けることは難しくなっている。更にカーボンフレームは、一部メーカーではトレッキング車やクロスバイク等のトップモデルにまで取り入れられ、カーボンフレーム普及に一層拍車が掛かっている。ところが Bike Europe 紙のウェブ版によると、中国政府当局はカーボンフレームを中国から輸出する際は、認定機関での検査を経てから輸出することを決定したと伝えている。カーボンフレームの破損事故が生じ、昨今の玩具等の中国製品に対する欧米の品質への不信感を払拭するための対策である。この決定が各メーカーにどのような影響を及ぼすか今後注目される。

ここまでフレーム素材や部品構成の画一化が進んでくると、各メーカーは独自のカラー、デザイン、機能、品質等をPRしそのブランドの特徴を前面に打ち出し差別化を図る必要がある。例えばビアンキのチェレステブルー（ビアンキのブルー塗装）は独自のカラーとして有名であるが、それを見習って KTM（オーストリア）は、自社のイメージカラーである黒とオレンジのカラーをかたくななまでに各車に取り入れていた。また STEVENS の純白のフレームにシンプルな黒一色のロゴデザインは、各社の似通ったデザインの自転車に慣れた目にはかえって新鮮な印象を受けた。



FELT(隙間無く自転車を並べる展示)



KTM (黒とオレンジカラーリングを強調)



フォーカス



コラテック

(両ブランドは日本でも取扱いが開始されたばかりである)

その一方で、これからの新興ブランドは、どのようなブランドイメージを確立することが出来るかが鍵となる。小さなMTBメーカーから世界的な総合スポーツ車ブランドに成長したアメリカのトレック、スペシャライズドや台湾のジャイアントの巨大なブースを見ればそれは明らかである。EUROBIKEは新商品発表の場としてだけではなく、製造以外のマーケティングや広報・宣伝、流通などの分野でもその重要度は増し、メディアからの注目度も高まり今年には32カ国1,280名の取材陣が訪れた。併設イベント「DEMO DAY」の開始も新たな方向性を模索した結果である。更に今年はプレスセンターのみならず、出展者も自分達のブースで

ワイヤレス・ランを無料で利用できるようにするなど、利便性の向上を図っていた。



スペシャライズド



イエティ

JBPI ブース

当協会は今回が5回目のEUROBIKE出展となった。今年も昨年同様、面積60㎡のブースに(株)スギノテクノ、(株)三ヶ島製作所、(有)レクタス、ナショナルタイヤ(株)、OGK 技研(株)、サンスター技研(株)、(株)OGK カブト及び(株)ユニコの計8社が出展した。



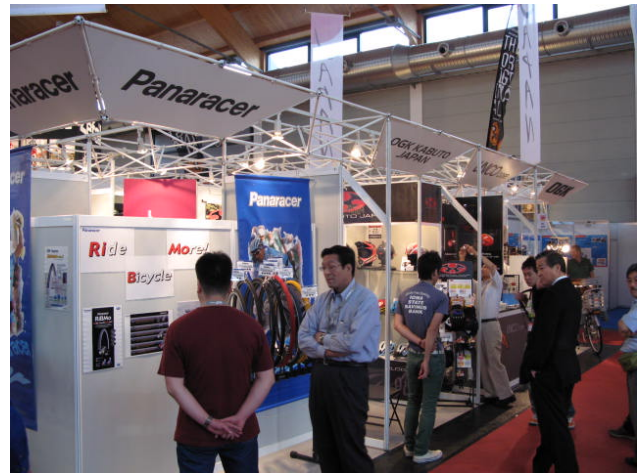
自振協(JBPI)ブース



共同出展ブース(ユニコ)



共同出展ブース（サンスター技研）



共同出展ブース（パナレーサー、OGK カブト）

新しい試み「EUROBIKE DEMO DAY」

メッセからバスで30分程のオーストリアの町において、今年初めて DEMO DAY が開催された。この催事は、ラスベガス（米国）のインターバイク展で開催されている「アウト・ドアー・デモ」を意識して催されたものである。当日は朝から生憎の強雨という悪天候であったが、午後の僅かの時間には晴れ間も覗き、70社余りの参加企業に対し、300名の取材陣と1,000名の来場者が会場を訪れ、最新のスポーツ車の試乗を楽しんだ。今回初めての試みであるため、この成否については来年以降どのような成果を上げられるかにかかっている。次回開催日程を増やしシャトルバスを増発して、より多くの EUROBIKE 来場者に参加の機会を与えてほしい。



EUROBIKE DEMO DAY の様子

今後の課題

EUROBIKE が数的拡大を続け、世界中から多くの人々が集まるにつれ、宿泊施設及び展示会場への交通アクセスの状況は悪化している。また、出展希望者の増大により主催者側では、ホールを2つ(A7・B5ホール, 各 6,300 m²)増設する工事に着工したが、完成は2008年秋の予定で、入口・通路・駐車場も整備するため、すべてが整い利用可能になるのは2009年となる。そのため、あと2年間はこの状況を甘受しなくてはならない。こうした問題も解決されたとき EUROBIKE は真の世界最大の国際自転車展と言えるであろう。

次回開催は、2008年9月4日(木)～7日(日)の4日間の予定である。

以 上

デュッセルドルフ事務所

「参考」

別表：EUROBIKE2007 国別出展者数

国名	出展社	国名	出展社
ドイツ	313	リヒテンシュタイン	1
イタリア	138	セルビアモンテネグロ	1
オランダ	38	モナコ	1
スイス	35	ギリシャ	1
英国	21	スロベニア	1
オーストリア	20	アンドラ	1
スペイン	17	イスラエル	1
フランス	16	米国	26
ベルギー	10	カナダ	6
チェコ	8	オーストラリア	2
デンマーク	5	ニュージーランド	1
ポルトガル	4	台湾	186
ハンガリー	4	中国	21
ノルウェー	3	日本	11
スロバキア	3	香港	3
サンマリノ	3	パキスタン	4
スウェーデン	2	タイ	3
フィンランド	2		
ポーランド	2	合計 36 カ国	914 社

※上記数値はメッセ事務局 9/24 付出展者リストより集計したものです。